



## 測定隨時受付中

ちくりん舎は、行政から独立して放射能汚染を監視・測定、情報発信する市民団体・個人の共同ラボです。

### 市民放射能監視センター

#### ●共同ラボ & 事務所

〒190-0181

東京都西多摩郡日の出町  
大久野 7444

#### ●電話 & FAX

042-519-9378

#### ●電子メール

lab.chikurin@gmail.com

### 目次

- 第2回ちくりん舎シンポジウム ..... 1
- シンポジウムに参加された方々の声 ..... 3
- ゲルマ2台化体制へのお願い ..... 4
- ちくりん舎の測定結果 ..... 5
- ちくりん舎よもやま話 ..... 5
- ちくりん舎会員紹介(6) ..... 6
- 会員募集中 ..... 6

## 多数の参加で熱気あふれる会に ～第2回ちくりん舎シンポジウム～

3月1日(日)、立川市の「たましんRISURUホール」で第2回ちくりん舎シンポジウム「広がる放射能と子どもたちへの健康影響～チェルノブイリの実態から考える～」が開催されました。あいにくの雨にもかかわらず約70名の方々が参加され、熱気あふれるシンポジウムとなりました。

シンポジウムでは OurPlanetTV 代表の白石草さんから「チェルノブイリの実態、福島・日本の子どもたちの今後の健康」と題した講演が行われました。

その後、「もう一つの内部被ばく～仮設焼却炉現場からの報告～」と題して放射能ゴミ焼却を考えるふくしま連絡会代表の和田央子さんから、福島県内各地で進められている放射能汚染ゴミ焼却炉の問題についての活動報告がありました。

またNPO法人ちくりん舎の理事・青木一政さんから「リネンプロジェクトから見えてきたもの」と題して、いくつかの団体と共同で進めている大気中浮遊塵の放射能測定についての報告がありました。

このシンポジウムには、福島県南相馬市からつくば市に避難している平田安子さんをはじめ4名の方々の参

加がありました。平田さんは福島原発事故の後、どのように生活が変わってしまったか、その大変な状況のお話をありました。

最後に全体の報告を受けて活発な質問や意見交換が行われました。

＜ウクライナでは今も子どもたちに健康影響が出ている－白石草さん＞

白石さんは、チェルノブイリ事故後の状況を取材するため2013年と14年の2回にわたりウクライナを訪問しています。

白石さんの報告は最初に OurPlanetTV が制作したビデオ「チェルノブイリ28年目の子どもたち」の短縮版の映像から始まりました。

映像や白石さんの講演は、チェルノブイリ後のウクライナにおいて、今も子どもたちに健康影響が出ていることを人々



立川の RISURU ホールで開かれたシンポジウム



講演者の白石草さん

しく伝えるものでした。また、憲法やチェルノブイリ法にもとづいて、国家として子どもたちの健診や保養などをきちんと実施している様子が分かり、日本の現在の状況とのあまりの大きな落差に驚かされるものでした。

#### ＜福島県での放射能汚染ゴミ焼却に反対する活動－和田央子さん＞

和田さんは、2012年秋に自宅から2キロの鮫川村に放射能汚染廃棄物焼却炉が秘密裏に建設されたことをきっかけとして、反対運動に立ち上りました。その後、県内19カ所に24基もの同様な焼却炉建設計画があることを知り、「連絡会」を立ち上げました。

鮫川村の仮設焼却炉は運転開始後9日目に爆発事故を起こしましたが、情報公開請求でも肝心の部分は黒塗りにされ、事故の原因がまったく明らかにされていないこと、事故後の説明会に参加しようとしても村外の住民は門前払いだったことなどが説明されました。

また、県内各地の焼却炉を調査し、仮設焼却炉の建設計画の裏には「何が何でも住民を帰還させる」という狙いがあることや、除染ゴミ仮置き場があふれるために仮設焼却炉でゴミをコンパクトにするという狙いがあることなどが指摘されました。

#### ＜空気中の放射能を測定する－青木一政さん＞

ちくりん舎からは青木一政さんが、リネン吸着法に

よる大気中の浮遊塵の放射能測定について報告しました。

福島原発のすぐそばを通る国道6号線や常磐高速道の開通などにより、高濃度に汚染した粉塵が幹線道路沿いに広がってゆくことや、仮設焼却炉から排出される放射能を含んだ煙などにより、放射能の二次汚染が懸念されること、特に細かな粒子は肺の奥まで到達して身体に取り込まれやすいくことなどの指摘がありました。

そうした中で、市民レベルでも比較的簡単に空気中のホコリの放射能を測定する方法として、麻布（リネン）を屋外に設置し、それに吸着した放射能量を調べるリネン吸着法の有効性についての報告がありました。

#### ＜命のバトンを「幸せのバトン」として繋げる－平田安子さん＞

南相馬市からつくば市に避難されている平田さんのお話は、被害者・当事者としての辛い経験と、その中でも自分達の役目や責任を果たしてゆこうとするもので、参加者一同の心を打つものでした。ご本人の了解を得て以下にそのまま紹介します。

＊＊＊

本日は南相馬の自主避難者の代表と云う事で、つくばから5名で参加しました。4年と云う月日は長かったのか短かったのか、大変辛かったです。

心の葛藤も今は薄れ諦めの胸中です。原発や沖縄の基地問題、世界の紛争は皆世界の経済の為、その蚊帳の外でいつも泣かされているのは弱者です。まさか自分たちが巻き込まれると、これこそ想定外でした。

ふくいち周辺環境放射線モニタリングプロジェクトの皆さまとの出会いにより、主人と二人でプロジェクトに参加してまいりました。汚染の現実を知り地域の人たちに危険を訴え続けて来ましたが、笛吹けど踊らぬ弱者に「物云えば口びるさむし」で、訴える事さえ諦めの胸中です。